



**〔岡田〕** 今回の東日本大震災の津波の想像もつかぬ破壊力、そして、何もかも奪い去ってしまう猛威を見るにつけ、練り直しが必要と考える。日頃から、知識と備えを身に付けられるような、訓練の質を高めていくことが大切である。

## 防災計画の 練り直しは？

**岡田議員**

## 必要と 考えている

**町長**

平時の備えやリアリティーにもとづいた訓練を。特に子どもへの危険予測能力を高めるためには、訓練やシミュレーションを繰り返し行い、おのずと気づき、考え、行動できるように育てるものでなければならぬと言われているがどうか。

**〔町長〕** いざという



総合防災訓練の様子

時に子どもたちが判断し行動できる力が必要であり、そのための教育が大切である。大山西小学校が県の防災教育モデル校指定を受け、鳥取大学と連携した防災教育を進めることになった。支援しながら、その成果を町内全体に広げていく方策を考えていきたい。

## 英語必修化の 対応は？

**岡田議員**

## 中学校英語への 移行が課題

**教育委員**

**〔岡田〕** 今年度から小学校5・6年生での外国語活動が必修化された。

しかし、全国の小学校5・6年生担任教師の約70%が、英語の指導に自信がないという調査結果がある。また、民間会社に業務委託の場合さまざまな問題が生じていると聞く。本町での状況は。

**〔教育委員長〕** 中山小学校と大山西小学校がそれぞれ国・

県の拠点校指定を受け、外国語活動の先進的な取り組みを行ってきた。指導計画は学校が作成し、事前に学校・外国語指導助手・委託会社で打ち合わせ、連携が取れている。

認識のもとで授業を進め、中学校の外国語科の学習にスムーズにつながるようにしたい。

**〔岡田〕** 中学校に入ってから、スペルや文法でのつまづきをなくすための指導は、**〔教育委員長〕** 中学校の壁と言われている課題。クリアできるよう取り組んでいく。

**〔岡田〕** 中学校との連携が不可欠であるがどんな形で行っているか。

**〔教育委員長〕** 小学校の教員が共通



小学校での英語の授業